

令和 7 年第 424 回信濃町議会定例会 12 月会議 会議録（2 日目）

（令和 7 年 12 月 4 日 午後 2 時 40 分）

●議長（酒井 聡） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

通告の 5、岡本かおり議員。

- 1、シビックプライドについて
- 2、一茶 200 回忌事業の準備について
- 3、信濃町ふるさと移住体験施設について

議席番号 1 番、岡本かおり議員。

◆1 番（岡本かおり） 発言を許されました、議席番号 1 番、岡本かおりです。通告に従いまして、3 点に渡って一般質問をいたします。最初に、信濃町の後期基本計画等を推進する上で、町民のウェルビーイングの向上や住民協働のさらなる推進、シビックプライドの醸成などが挙げられていますが、現在までの取り組みと、どの程度実現ができているのか、町長に伺います。

●議長（酒井 聡） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） ただ今、岡本議員から頂きました質問にお答えいたします。質問にもございました、ウェルビーイングの向上とは、町民が幸せに暮らし続けられる町の実現に向けた施策を進めるためのまた、シビックプライドの醸成につきましましては、地域に対する愛情や誇りを育むといった概念を指しております。これに加えて、3 つ目の視点といたしまして、お互いに助け合いながら、住み続けたい町の実現に向けた取り組みとして、住民協働のさらなる推進を掲げておりますけれども、本町の目指す対話と協働を実現するための、極めて重要な考え方であると認識しております。現在どこまで実現できているかのお尋ねでございますけれども、現時点で達成度を評価することは大変難しいと考えておりますけれども、次の第 7 次計画に向けて、町民意識調査などを行うようなことがあれば、様々な取り組みの成果として数字に表れてくるのではないかと期待しております。今後は、こうした理念を町民の間で共有していただくため、安心して暮らせる生活環境の整備や、地域の活動に参加しやすい仕組みづくり、そして本町が誇ります、自然環境や景観、歴史、文化に触れる機会の創出など、町民の皆様が信濃町らしさ、信濃町の良さ、魅力などを日常生活の中で実感できる環境づくりに努めてまいります。また来年度は、町政施行 70 周年の節目を迎えます。この機会を町民の皆様とともに、未来を語り合う絶好の機会と捉え、対話と協働を通じた会議の開催など、町民参加による創造の場を積極的に設けてまいりたいと考えているところでございます。以上です。

令和 7 年第 424 回信濃町議会定例会 12 月会議 会議録（2 日目）

●議長（酒井 聡） 岡本議員。

◆1 番（岡本かおり） 今の町長のお答えで、未来を語り合う良い機会ということで、来年度のいろいろなイベントの企画を楽しみにしております。ありがとうございます。それで、私 9 月に信濃小中学校の秋桜祭を見学させていただきました。9 年生の修学旅行の発表でした。その発表は他の地域を見て楽しかったというものだけではなく、信濃町と比べてどこが違うか、どこがどのように良いかなどをきちんと分析して、最後にはその地域の良い点を見習おうと行動していったものでした。今回の旅行先は奈良、京都、滋賀でしたので、信濃町同様、緑あふれる観光地、観光客も同じように多い場所なのに、目につくごみの量が信濃町の方が多いいのはなぜなのか調べていくと、ごみゼロプロジェクトというのが奈良県にはあったので、それを見習って信濃町でも同じように、ごみゼロプロジェクトを発展していき、ごみ拾い活動や、ポイ捨て禁止ポスター作りなどが提案されました。自然がきれいな町だからこそ、この町を守っていきたいと思って行動を起こすことが大切で、町のみんなで協力して町をきれいにしたいという発表を聞いたとき、まさしくこれは信濃町の基本計画そのものだと思います。生徒たちがこのようにいろいろと考えているのですから、我々大人たちも行動に移さねばと思いました。現在、ごみ拾い活動や、ポイ捨て禁止ポスターなどの制作などは、町ではどの程度行っておりますか、伺います。

●議長（酒井 聡） 梶澤住民福祉課長。

■住民福祉課長（梶澤恵美） それでは、ただ今、ごみ拾い活動などがどの程度行われているかというご質問でございますが、町では、住民の皆様や関係団体と連携しながら、自分たちの町は自分たちできれいにするという意識の醸成を目的に、環境美化活動を推進しております。住民福祉課環境係が窓口となり行っているものになりますが、まず毎年 5 月末には、公害防止協力員の皆様を中心として、住民と企業が協働するごみゼロ運動を実施しており、町内一斉のごみ拾いに取り組んでおりまして、毎年 500 人近くの皆さんにご参加いただいております。平常時におきましては、条例の公害防止協力員制度により、協力員の方々が、各地域でごみ問題や不法投棄、野焼きなどの環境保全に関する監視を日常的に行っていただくともに、異常や不法投棄が確認された場合には、直ちに町へ報告いただいております。ごみの回収などの対応を行っておるところでございます。不法投棄対策としましては、長野シルバー人材センターに委託し、週 1～2 回、冬期間を除き年間 40 回ほどになりますけれども、パトロールと回収業務を行っているほか、振興局との協働により、町が推薦した不法投棄監視連絡員による町全体の週 1 回の巡回というものも実施しております。また、ポイ捨て活動につきましては、警察の許可を得まして、罰則金を明記した啓発看板を作成し、各地域から要望のあった場合を中心に、総代の皆さんの管理のもとで掲示を行うことで、抑止力の向上に努めております。令和 7 年度につきましては、新たに 10 か所設置いただいております。そして、先ほど、9 年生のお話が出ておりましたけれども、毎年、信濃小中学校の 5 年生の授業の一環で、

野尻湖クリーンラリーを実施し、今年度は6学年の皆さんがクリーンラリーをきっかけに、ごみ問題学習を実施し、子どもたちによる啓発ポスターや、ごみを活用したモニュメントを制作し、さらには子どもたちの声で防災無線を通じた呼びかけを行っていただきました。また、町の11月広報にも、子どもたち自ら作成した記事を掲載しまして、町全体への啓発活動も展開していただき、大変うれしく感じた次第でございます。これらの取り組みを通じまして、町民一人一人が環境理解の意識を高め、町への誇りを感じてもらえるような町づくりを、今後も推進してまいります。

●議長（酒井 聡） 岡本議員。

◆1 番（岡本かおり） ありがとうございます。私はナウマンゾウ博物館のクリーンラリーの展示物は拝見させていただいております。私もあれを見たときに、最初見たときはまだ、下の展示物だけだったんですけれども、その後もう一度行ったら、ポイ捨てポスターの方も展示されておりました。どのポスターも心に響くものでしたので、機会がありましたら、生徒たちのポスターを印刷していただいて、そちらも貼っていただけたらいいなと思いましたので、きっと多くの人が、子どもたちの描いた絵ですので、目につきましたので、ポイ捨てを禁止するには良い抑止力になるかと思いますので、ご検討くださいませ。人口減少が大きな課題の我が町なのですが、小中学校のふるさと学習によって生徒たちが町を好きになり、この町に生まれてよかった、この町で育ってよかったという思いを持った生徒たちは、将来他の地域で生活しても、心の中にふるさと信濃町がしっかりあれば、いつかはやはり信濃町で暮らしたいと戻ってくると思います。そのときに幻滅させないように町の景観を維持し、今まで以上にきれいにしておいて、戻ってきたくるような町づくりをしていくことが、この町に住んでいる人たちの役目だと思います。現在、先ほどお話を伺いましたように、ごみゼロ運動がありまして、5月末に町全体でやっていращやるということです。これも今後とも途切れることなく開催していただけることを願います。小さなことかもしれませんが、道に落ちているごみ一つでも拾えば、その分きれいになります。小さな行為でも、多くの人が行えばすごいことになります。みんなでおしゃべりしながら、歩きながら、楽しみながらごみ拾いをすればウォーキング活動にもなり、みんなで健康にもなると思いますので、これからもこの取り組みをやっていただけたらうれしいです。次に一茶 200 回忌について伺います。先日 199 回忌を迎えましたので、準備期間は1年を切りましたが、県との共同事業はどのような形で進んでおりますか。まだ未確定な事業などもあると思いますが、発表できる範囲でお答えいただけますでしょうか。

●議長（酒井 聡） 北村教育長。

■教育長（北村康彦） 一茶 200 回忌事業のうち、県との共同事業についてのお尋ねでございます。令和 8 年度に実施を計画しております小林一茶 200 回忌事業のうち、メイン事業として位置づけているものが、県との共催が決定している1日開催のイベントでご

ざいます。こちらに関しましては、一茶 200 回忌という節目の機会を捉えまして、信濃町町民、ひいては長野県民に、ふるさとの俳人小林一茶、日本文化の粋である俳句の価値を再認識してもらうとともに、俳句文化をこれからの 100 年につなげていくような、俳句の進化、発展につながるようなイベントを目指して、企画を進めているところでございます。具体的な内容としましては著名人をお招きしての対談のほか、ステージイベント、あとこれは、子どもたちの学習の進み様にも関わりますが、信濃小中学校児童生徒の発表、それから物販等を組み合わせて、皆様に改めて一茶のふるさと、信濃町の魅力に触れてもらえるような機会を作ってまいりたいと考えております。以上です。

●議長（酒井 聡） 岡本議員。

◆1 番（岡本かおり） 県との事業は 1 日限りということで、よろしいですね。そうしたら、次に、町の事業の進捗状況の方はいかがでしょうか。信濃町自体の。実行委員会の話し合いも数回行われていると思いますが、こちらでも公表できるものをお答えください。町民参加で協力できるものもあると思いますので、具体的に教えてください。

●議長（酒井 聡） 北村教育長。

■教育長（北村康彦） 一茶 200 回忌に向けての、町独自の事業についての、お尋ねでございます。現在教育委員会では一茶 200 回忌に向けまして、様々な企画を検討しておりますが、その中で最も大切にしたいと考えていることは、住民の皆様と活動を共にすることで、一茶のふるさとに住む者同士の絆を深めるとともに、一茶顕彰の機運を高め、継承していく、そういうことだと思っております。こうしたことが先ほどお話にありましたように、シビックプライドを醸成していくことにもつながるのかなと。様々な 200 回忌に向けたイベントを町民参加でやるのが、シビックプライドの醸成につながるというふうに思っています。そんな中、先般の議会で補正予算をお認めいただき、取得を完了した一茶位牌堂の周辺整備を、一茶保存会の皆さんとともに、あるいは地域の皆さんも加わっていただいて、一緒に整備させていただきました。そのほか、天候の悪い中でしたけれども、30 名ほどの町民の皆さんにお集まりいただいて、一茶旧宅や弟屋敷の茅葺き屋根の修復に活用する目的で、黒姫高原すすきの刈り取りを行いました。そのほか、新春 1 月に東京の日生劇場で初演を迎えます、一茶を主人公とする新作ミュージカル「ISSA in Paris」を小林一茶 200 回忌と町政 70 周年を記念して後援させていただくとともに、広報しなのの 12 月号でお知らせしましたが、町民の皆さんとミュージカルを見に行くバスツアーを企画させていただきました。町民の皆さんとともに 200 回忌の年始めに一茶のミュージカルを見に行こうという企画でございます。さらに、先般基金を活用して一茶最重要資料である七番日記を購入させていただくことができましたことは、来年に向けて幸先の良いことと思っております。このことは、今朝の新聞にも掲載されましたし、本日夕刻ですが、マスコミ向けのプレスリリースも行う予定となっております。今後につきましては、200 回忌特別展として七番日記の世界、これは仮称ですけ

れども、七番日記の世界といったものを開催したいと考えておりますし、書影、一茶の筆跡ですね、書影を使えるようになりますので、様々な用途での活用が可能となってまいります。その他、構想段階の事業につきましては、今後予算審議等を通じて具体的にお話しさせていただきたい、というふうに思っているところですので、その他については、今日申し上げることは控えさせていただきたいと思います。以上でございます。

●議長（酒井 聡） 岡本議員。

◆1 番（岡本かおり） ありがとうございます。もうすでに、幾つかの活動をなさっているということで了解しました。住民と活動すること、記憶を継承していくことはとても大切なことだと私も思っておりますので、そういう考えは教育長も同じ思いでいることはとてもうれしかったです。ありがとうございます。それで、ミュージカルの件で一言言わせていただきます。ミュージカルをみんなでバスで行くのは、とても良いことだと思います。町民のみんなでワイワイ言いながら楽しんで、盛り上がっていくのはとても素晴らしいことだと思います。自分で行くとなると車で運転するのも大変ですし、電車も乗り換えなどで大変なので助かると思います。そして、何より生の舞台を見ることはとても素晴らしいことだと思いますけれども、長時間のバス移動となると大変だという方もいると思います。ですから、舞台の映像を後日でもいいのですが、信濃町で上映ということもちょっと考えていただきたいと思います。映像ですから、感動はかなり半減してしまうかもしれませんが、バスで行く場合だと人数も限られますし、町民の方々全員にも見ていただきたいと思いますので、できれば公民館などで上映というものをちょっと考えていただきたいと思います。そして、先日コーラスグループの方が来春に一茶さんの歌のコンサートを計画していると伺いました。このように、町内の方々もそれぞれ一茶忌を盛り上げていこうと考えてくださっているのだと思います。大規模なイベントも良いのですが、町民の皆さんで盛り上げていって、子どもから大人まで協力してやったイベントなどは、ずっと心に残る思い出になります。先ほど教育長もそうおっしゃっておいりましたので。そして、私が一茶忌のときに頂いたお蕎麦は、とてもおいしかったです。信濃町で育てられたお蕎麦で作られたお蕎麦のおもてなしは最高だと思います。きっとあの日、来ていただいたお客様、多くの方にとっても心に残る味だったと思います。これもシビックプライドに通じていくものだと思います。そして、これも住民協働にもなります。実行委員会の方で、こういったイベントなどを組み上げていって、一茶 200 回忌の関連事業をまとめていただけたらよいかと思います。できるだけ早く町民の方々にお知らせしていただいて、皆さんが協力できるようにしていただけたらうれしいです。では最後の質問にさせていただきます。現在富濃にあります信濃町ふるさと移住体験施設について伺います。この施設の利用料金について伺います。

●議長（酒井 聡） 柄澤総務課長。

■総務課長（柄澤 豊） それでは、当施設の利用料につきましてでございますが、信濃

令和 7 年第 424 回信濃町議会定例会 12 月会議 会議録（2 日目）

町ふるさと移住体験施設の設置及び管理等に関する条例第 9 条及び別表に基づき定めておりまして、具体的には、移住生活体験室の基本使用料は 1 泊 1650 円でございますが、ただ、移住検討者の負担軽減と長期滞在の促進を図るため、第 9 条第 1 項、但し書の規定により宿泊日数が 7 泊に満たない場合は無料というふうにしております。したがって、使用料が発生するのは 7 泊以上滞在された場合のみであり、実際の宿泊数から 6 泊分を差し引いた日数分に対して 1600 円の徴収させていただいているという状況でございます。

●議長（酒井 聡） 岡本議員。

◆1 番（岡本かおり） ありがとうございます。1 週間以内の場合が、7 泊未満だと無料ということですね。それで、この施設の利用状況といいますか、予約状況も含めてどのくらい埋まっているのか伺います。大体過去何か月だけでもいいんですけれども、分かっている範囲で教えてください。

●議長（酒井 聡） 柄澤総務課長。

■総務課長（柄澤 豊） まず、施設の開館日につきましては、12 月 28 日から翌年 1 月 3 日の年末年始を除く期間を通年で貸し出しているということで、営業しています。利用実績でございますが、令和 5 年度は利用者数が 33 組、延べ宿泊数 183 泊で、施設が稼働した日数は 216 日ございました。令和 6 年度は利用者数が 31 組、延べ宿泊数 182 泊で施設を稼働した日数が 213 日となっております。年間通じて約 6 割程度の日数が利用されているという状況でございます。

●議長（酒井 聡） 岡本議員。

◆1 番（岡本かおり） 6 割ですと、かなり稼働しているということなんですけれども、それでこの施設の維持管理費用はどのくらいでしょうか。光熱費や掃除などの人件費や、トイレトーパーなどの備品など 1 年でお幾らになりますでしょうか。それで大体それを 1 年、1 日で割りますと、どのくらいになるか教えていただけますか。

●議長（酒井 聡） 柄澤総務課長。

■総務課長（柄澤 豊） 令和 6 年度の決算において申し上げます。維持管理費用で、このふるさと移住体験施設、維持管理費で 61 万 5028 円ございまして、内訳につきましては消耗品、光熱水費、組費等の維持管理費で 32 万 9422 円、移住体験施設運営等業務委託費で 20 万 5700 円、下水道、インターネット使用料等で 7 万 9906 円、合計今ほどの 61 万 5028 円でございます。365 日で割り返しますと、1685 円という数字になります。なお、維持管理に要する費用につきましては、約半分が国の特別交付税の対象になって

令和 7 年第 424 回信濃町議会定例会 12 月会議 会議録（2 日目）

おりますので、30 万円ぐらいが特交対象ということでございます。以上でございます

●議長（酒井 聡） 岡本議員。

◆1 番（岡本かおり） ありがとうございます。移住する方は一つの季節だけではなく、特に冬場なども体験していただけるといいなと思いますが、延べ人数だとちょっとわからないんですけども、この施設を利用した方のリピート率、同じ方が何回使ったかとか、そういう数字がわかりましたら、教えていただきたいんですけども。

●議長（酒井 聡） 柄澤総務課長。

■総務課長（柄澤 豊） リピート利用の状況でございますけれども、開設以来、これまでの全利用組数が 306 組ございまして、複数回利用した件数は 41 件というふうになっております。移住を検討する過程で季節を変えて再度体験される方などが、一定数いらっしゃる。こういうことだと思います。

●議長（酒井 聡） 岡本議員。

◆1 番（岡本かおり） ありがとうございます。41 件の方がリピートしてくださっていることなんですけど、そうするとこの施設を利用した方の移住率はどのくらいでしょうか。

●議長（酒井 聡） 柄澤総務課長。

■総務課長（柄澤 豊） 当施設利用者の移住実績でございます。今ほど、今まで 306 組と申し上げましたが、実際に当町へ移住に至ったのは 32 組、人数にして 55 名となっております。およそ 1 割強の方が、当施設での体験を経て定住につながっている、という状況でございます。

●議長（酒井 聡） 岡本議員。

◆1 番（岡本かおり） 1 割の方が移住してくださるのはとてもありがたいことで、この信濃町を知ってもらうには、無料というのがとても良い方法だと思いますけれども、信濃町では、今のまま無料、このままを続けるのでしょうか。お尋ねします。

●議長（酒井 聡） 柄澤総務課長。

■総務課長（柄澤 豊） 今の条例の制度で、6 日までは無料ということでございます。それ以降はちょっと長くなりますと 1650 円頂きたいということでやらせてもらっていますが、特別に大きく費用がかかっているとか、特別交付税措置もございますので、費用

令和 7 年第 424 回信濃町議会定例会 12 月会議 会議録（2 日目）

がかかっているということはございませんので、その中で、今の体系で維持していくのがいいだろうなというふうに思っているところでございます。ただ、昨今の物価高騰など、社会情勢の変化とかそういうものがあれば、また料金改定もあり得るかな、ということでございますので、ご理解をいただきたいと思います。

●議長（酒井 聡） 岡本議員。

◆1 番（岡本かおり） ありがとうございます。無料の良さというのは、多くの人が目について、目に留まって、気軽に信濃町に来ていただいて、信濃町のファンになってもらえるというメリットはすごくあると思います。その反面、あまりにも多くの人が使うために、本気で移住を検討しているという方が、体験住宅を利用できないという方の声も聞きました。ですので、先ほど伺った金額の半分は補助金があるということなので、1000 円に満たない金額ですが、その実費ぐらいは、もしかしたら徴収をすることによって、無料だから来るというとても軽い気持ちの人ではなくて、お金を払ってでも信濃町に行きたいという人を選ぶという意味も含めて、できれば、将来近隣の市町村のように実費を徴収しているような形を検討していただきたいと思います。人件費や光熱費がどんどん値上がっている、先ほど課長もおっしゃったように光熱費なども値上がっておりますので、その辺も検討していただけたらうれしいと思います。これで私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

●議長（酒井 聡） 以上で、岡本かおり議員の一般質問を終わります。

お諮りいたします。本日の会議はこの程度にとどめ、延会としたいと思います。これにご異議ございませんか。（なしの声）異議なしと認めます。よって、本日はこれで延会することに決定いたしました。念のため申し上げます。明日 12 月 5 日の本会議一般質問は午前 9 時 45 分より開会しますので、時間までにお集まりください。本日はこれで延会といたします。お疲れ様でした。

（終了 午後 3 時 52 分）